

知財業務における画像生成AI活用戦略：Nano Banana 2.1 vs GPT-Image 2.5

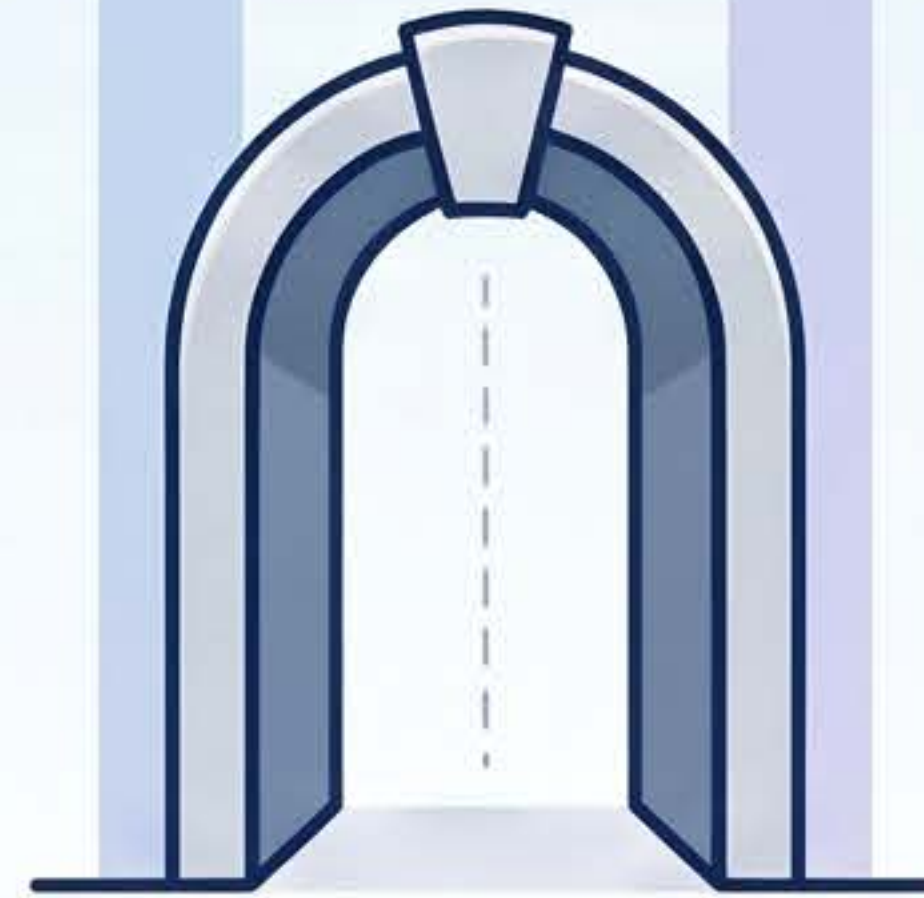
2026年10月時点の評価に基づき、Google「Nano Banana 2.1」とOpenAI「GPT-Image 2.5」の強みを整理。
一社に統一するのではなく、用途別の二層化と人間による知財審査ゲートを設ける運用が最も合理的です。



検索情報連携・技術図解は
Nano Banana 2.1



検索連携や最大14枚の参照画像、明確な解像度別単価により特許概念図や大量ドラフトに強み。



知財審査ゲート
(Human Review & Validation)

精密編集・高品質ビジュアルは
GPT-Image 2.5



Arena top1



original edited



logo draft

Arena評価で首位獲得。参照画像の保持や局所編集、ブランド最終候補作成に最適。

知財実務における必須運用ルール



**AI 出力の無審査利用は厳禁
(ドラフト用途に限定)**

特許図面や商標最終案、侵害証拠には直接使わず、人間とCAD等で再構築・確定する。



**未公開発明・営業秘密は
企業向けAPIのみで使用**

学習に利用されないPaid Tier/Business契約環境を徹底し、無料版での入力禁止。

